

# 永久平和

石原莞爾自筆

第150号  
(令和元年10月25日)

## 目次

巻頭言	1
「日本には核兵器は無用」	1
◆最終戦争論・再考	2
野村乙二朗	2
◆「石原莞爾先生生誕百三十年 記念の会」を終えて	4
歌川博男	4
◇「料亭・筑紫亭とのご縁」	6
昭和天皇の御製	6
飯田教大	6
●会員便り	8
SNS	8

## 宣言 (昭和31年協和会「昭和革新論」より)

- 1、人類歴史は最終戦争時代に突入し、世界の統一は眼前に迫った。われらは最小の犠牲をもって、新しい歴史を開こう。
- 2、都市解体、農工一体、簡素生活、この三原則によって新日本を建設し、搾取と戦争のない、人類次代文化の先駆となろう。
- 3、東亜に対する過去の態度を深く懺悔し、まず近隣と道義によって固く結び、ひいて永久平和の実現に邁進しよう。

## 日本には核兵器は無用

本会会長 仲條 拓躬



被害吸収能力のない日本にとって、核兵器は無用だと思います。だが、日本は核をつくることは技術的に可能でしょう。またそれだけの経済力も十分にあります。しかし、基本的に日本には核戦争の被害吸収能力がないのです。

つまり攻撃によって相手にどれだけの被害を与えうるか、相手から攻撃を受けても、それを我慢してそれ以上の被害を相手に与えうるかどうか、ということを中心として議論されてきました。しかし、軍事戦略の効果を攻撃だけで判断するのは無理でしょう。

もともと相手から攻撃を受けた場合に、どの程度損害に堪えて、どれだけ早く立ち直れるか、つまり生きのこり能力がどれだけあるかが重要なはず。その点、都市化し、近代化した先進工業国ほど、破壊に対する物理的、心理的打撃が大きく、立ち直りが遅く、生き残り能力が低いと思います。

日本の場合、生き残り能力は、この四つの島に限定された防衛領域では、ゼロに近いでしょう。継戦能力は国民の士気、物質の貯蔵、備蓄などの問題と関連してきます。最初の攻撃によって受ける被害が二十五〜三十パーセントの被害を受ければその国は戦争を継続する能力を失うと言います。

日本の本土はあまりにも狭く、しかもその狭い本土内で人口の半分近くが、数か所の大都市圏内に集中しています。これを心配していたのが石原莞爾です。石原莞爾の三原則の

中に「都市解体」をスローガンに恒久平和を願っています。

数字で各国を比較してみると、人口の二十五パーセントは、中国の場合一千以上の都市に、ロシアは百、アメリカでは十の都市に分散しています。日本の場合には、東京都とその周辺千葉・埼玉・神奈川を合わせてもすでに二十五パーセントを越えているのです。

つまり日本は一、アメリカ十、ロシア百、中国一千という比率と大ざっぱに考えて見ると被害吸収力という点では中国がもっともすぐれ、日本がもっとも弱いということがわかります。つまり、日本の場合には、やられてやり返すという第二撃論は成り立たないし、また将来ともその可能性はないのです。

日本としては軍事大国に仮になろうとしても、それは核兵器を除いたものであり、近代的意味での軍事大国ではないのです。憲法の規定とは関係なく、また他国に脅威をおよぼすものをもたないという政策とも関係なく、核兵器は初めから日本の場合には、有効な兵器とはならないし、脅かして抑止するという理論も日本の場合成立しないと思うのです。

本年は石原莞爾生誕百三十年の節目に当たります。また、「永久平和」会報が百五十号となりました。会員の方の多くは高齢で九十歳、百歳の方が多いです。実際の歴史を語る方が少なくなってきたいます。発足後四半世紀が経過し、会員が激減しているのが現状です。石原莞爾と東亜連盟の志を後世に継承させるためにも、これからの若者を支援し且つ育成したいと心から願っております。これから何卒よろしくお願ひ申し上げます。



◎会員便り

〈篤志会員〉

野村乙二朗 様 (神奈川県厚木市)  
木下 靖夫 様 (鳥取県鳥取市)  
測上 千津 様 (千葉県市川市)

〈ご寄付〉

野村乙二朗 様 (神奈川県厚木市) …二万円  
飯田 教夫 様 (京都府舞鶴市) …五千元  
新野 秀志 様 (福島県三方郡) …五千元  
田中 良則 様 (徳島県阿南市) …一千元

★SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)での投稿記事を紹介します

西大條浩一 同志 (埼玉県さいたま区)

ファミリィヒストリー見ました。小沢征爾の父、開作さんがこれほどまでに五族協和の実現に尽力した人とは知りませんでした。そして石原莞爾の元に足繁く通い詰め、開業していた歯科医院をやめてまで活動に没頭したのはよほど石原莞爾に心酔していたからに違いありません。征爾の命名に板垣征四郎と石原莞爾から一文字ずつ取って征爾とした時、板垣征四郎が「石原君の方が偉いから爾征にしたら」と言ったとのエピソードは両者の対極的なキャラクターが表れていて面白かったです。石原莞爾の紹介を抑えたのは、これ以上スポットを当てたら簡単には収まらなくなってしまう小沢家のヒストリーが薄くなるという判断だったのでしょうか。放送で改

めて石原莞爾に興味を持つ人が増えたのではないのでしょうか。そうであってほしいと願います。

矢野光代 同志 (宮崎県延岡市)

延岡市に在住していますので、なんのお力にもなれませんが、会費と寄付金、振り込ませていただきました。また一緒に飲みましようね。楽しみにしています。これからも応援しています。

Youko Maeda 同志 (福岡県福岡市)

満蒙が併合されているなら 日本は敗戦では無くて停戦ですね。それには 駄々漏れの暗号がかわっていないければならない。東條では無理。特攻隊など 追い込まれていますからやはり 核兵器の開発ですね。ほほ出来ていましたから。日本がどこに落とすか？落とすしに行く所が遠すぎます。

氏家博 同志 (千葉県柏市)

憲法を変える必要がありますね。

石橋直之 同志 (島根県松江市)

だんだん、現代に通じる学習をさせて頂きました。今後ともご指導よろしくお願い致します。くれぐれもご自愛ください。

的場美和子 さん (和歌山県岩出市)

ずっとずっと歴史を遡れば、いろんな時代があつて、その時代を変革し、生き抜きたいいろんなリーダーがいたのですよね。そして、今の日本。これからもずっとずっと平和な国であつてほしいです。

西田典子 さん (神奈川県横浜市)

歴史上の人物から政界も個人も学ぶ事が沢山ありますね。人の上に立つ指導力のある人は冷静で謙虚さが必要ですね。台の上から恥を知りなさい！と罵倒する人は恥ずかしい限りです。

島影隼人 さん (北海道札幌市)

今の日本は官僚が精神的に退化して居る様で悲しいです。

原田亮 さん (福岡県福岡市)

私自身、石原莞爾を尊敬するもので、この会を拝見し、お仲間に入れて頂きたく申請させて頂きました。皆様の投稿を拝見して、まだまだ自分の未熟さと浅学さを思いましたが、自分自身を高められるきっかけになればと思う次第です。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

★発行所 石原莞爾平和思想研究会

〒270-1158 千葉県我孫子市船戸1-3-15-113

石原莞爾平和思想研究会事務所内

FAX 04-7183-5591

郵便振替 00130-9-410942

発行人 仲條拓躬

編集人 「永久平和」編集委員会

定価 200円 (送料別)

会費(年間) 篤志会員 10000円以上

一般会員5000円、誌友会員4000円

第150号 令和元年(2019年)10月25日発行